

那須高原リゾートを自転車で巡る 「サイクルツーリズム “ナス1”」の紹介

栃木県 県土整備部 交通政策課

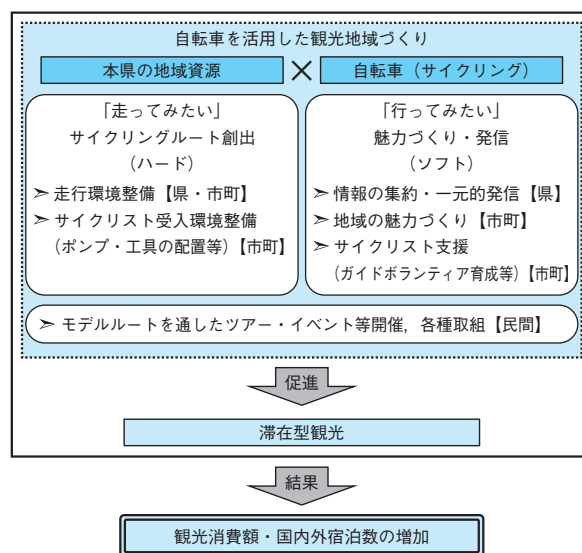
1. はじめに

栃木県では、サイクルツーリズムの推進に向け、快適な自転車走行環境の整備や優れた地域資源を活用した魅力的なサイクリング環境（モデルルート）の創出など、新たな取組を進めています。

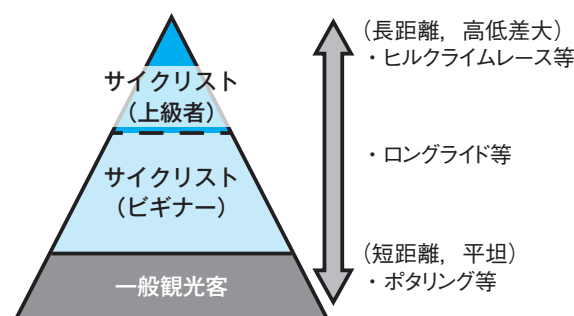
この取組では、東京圏や海外観光客のゲートウェイである成田・羽田の両空港に近接する立地環境にある本県において、豊かな自然や地域に根ざした歴史・文化、多彩な食や全国有数の温泉など、数多くの魅力ある地域資源を有機的に結び、一般観光客からサイクリスト上級者まで、本県を訪れる全ての方に“とちぎ”の魅力を満喫していただけるよう、サイクリングルートの設定や走行環境の整備等を推進することとしています（図－1、2）。

2. 「栃木県自転車活用推進計画」について

本県では、自転車通行空間の整備や交通安全活動といったこれまでの取組のほか、健康や観光などの新たな視点を加えた、自転車施策の基本となる「栃木県自転車活用推進計画」を令和2年3月に策定しました。この計画では「自転車を利用しやすい快適な“とちぎ”」、「自転車で楽しく健康な“とちぎ”」、「サイクルツーリズムで成長する“と



図－1 事業イメージ



⇒栃木県のサイクルツーリズムは、
全階層がターゲット

図－2 ターゲット層イメージ

ちぎ”」及び「自転車を安全に利用できる安心な“とちぎ”」の四つの目標を掲げ、13の施策と具体的な取組を示しています（図－3）。この計画の策定

を機に、参加型サイクルイベントの開催や、本県ならではの地域資源を活かしたサイクルツーリズムの推進など、「自転車先進県とちぎ」の魅力を高めるための取組を積極的に展開しています。

3. 「自転車先進県とちぎ」の発展に向けて

本県は二つのサイクルロードレースのプロチーム（宇都宮ブリッツェン、那須ブラーゼン）を擁し、プロ参加を含めた各種サイクルロードレースやイベントが県内各地で多数開催されています

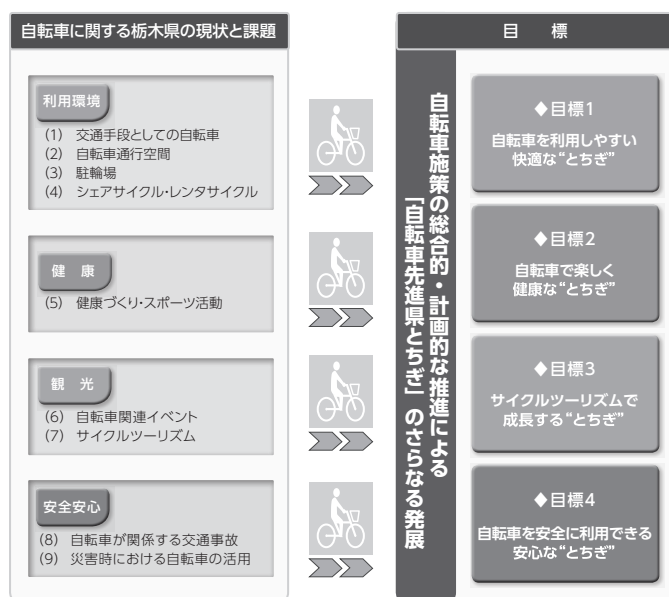


図-3 栃木県自転車活用推進計画概要

（図-4）。また、緑なす山々から広い平野まで変化に富んだ地形が多く、誰もが自分に合ったサイクリングを楽しむことができる環境も整っていることから、新たなモデルルートの設定と整備により、「自転車先進県とちぎ」のさらなる発展を目指しています。

4. 栃木県初のモデルルート「ナス1（イチ）」

栃木県自転車活用推進計画に基づき、自転車で地域を巡り、沿線の魅力を楽しむ体験型・交流型旅行の促進や、各種自転車関連イベントの開催等を通じた観光地域づくりを推進し、自転車を活用した地域の活性化を図るため、県全域にわたる複数のモデルルートの設定を検討しています。

令和2年度には、県内において先進的にサイクルツーリズムに取り組んでいる県北地域をベースとして、6市町（大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、塩谷町、那須町）を通過し、那須連山や那珂川、田園風景の雄大な景色や温泉、牧場、社寺等、地域観光資源を巡る全長約144kmの本県初となるモデルルート「栃木県サイクリングルート“ナス1（イチ）”」の設定を行いました。

プロサイクルロードレースチームの存在	
Blitzen 【宇都宮ブリッツェン】	NASU BLÄSEN 【那須ブラーゼン】
豊富なレースの開催実績	
■国際自転車競技連合(UCI)公認レース	
アジア最高位のワンデイレードレース	
ジャパンカップ	
サイクルロードレース（宇都宮市・1992年〜）	
本州で唯一	
ラインレースを実践したステージレース	
ツール・ド・とちぎ（栃木県全域・2017年〜2020年）	
■国内レース（全日本実業団自転車競技連盟（JBCF）主催）	
宇都宮ロードレース	宇都宮市
宇都宮クリテリウム	宇都宮市
那須塩原クリテリウム	那須塩原市
やいた片岡ロードレース	矢板市
チームタイムトライアルチャンピオンシップ	栃木市
タイムトライアルチャンピオンシップ	栃木市
県内で開催されるサイクルイベント	
3月	さくらめぐりポタリング さくら市
	宇都宮サイクルピクニック 宇都宮市・塩谷町
4月	咲くライド・さくら市 さくら市
	もてぎ7時間エンデュロ春 茂木町
5月	サイクルロゲイニングinかぬま 鹿沼市
	ぐるとち 県内全域
7月	那須高原ロングライド 那須町・那須塩原市・大田原市
	御亭山TT 大田原市
8月	やいた八ヶ原ヒルクライムレース 矢板市
	富士山勝ち抜きヒルクライム 鹿沼市
9月	ツール・ド・NIKKO 日光市
	たかボタ 高根沢町
10月	ツール・ド・おやま 小山市
11月	もてぎ7時間エンデュロ秋 茂木町
12月	ポターリングまじこ 益子町

※通常開催される予定時期であり、実際の開催時期とは異なることがあります。

図-4 栃木県におけるプロサイクルロードレースチームとサイクル関係イベント

(1) 県北地域サイクルツーリズム推進協議会

県北地域におけるサイクルツーリズムを推進するため、プロサイクルロードレースチーム、学識者、観光事業者のほか、県、市町、民間関係機関など産官学で構成される協議会（表－1）を立ち上げました。協議会はモデルルート設定、名称決定、活用の仕方の検討などを議題として初年度に3回開催され、2年目にはフォローアップも実施しています。

表－1 協議会構成員の分野・役割

構成員	役 割
学識者	・ 観光分野、まちづくり分野、スポーツ分野からの意見
有識者	・ プロサイクルロードレースチーム、自転車活用推進アドバイザーからの意見
民 間	・ ルートを通したツアーやイベント等の開催 ・ 官民連携による各種取組の担い手
県 (事務局)	・ 県管理道路における走行環境整備（路面表示、案内看板、道の駅におけるサイン類の統一） ・ 県内市町の情報の集約、一元的な情報発信（マップ作成、ポータルサイトの開設、ルート案内アプリとの連携）
市 町	・ 市町管理道路における走行環境整備（路面表示、案内看板、施設案内） ・ サイクリスト受入環境整備（サイクルステーションへのポンプ・工具等の設置等） ・ 地域の魅力づくり（観光コンテンツの磨き上げ・掘り起こし） ・ サイクリスト支援（ガイドボランティア育成、官民によるイベント開催等）

(2) 試走会の実施

試走会では、協議会の委員であるプロサイクルロードレースチームの宇都宮ブリッツェン、那須ブラーゼンが同行し、走行環境整備について助言が得られました。両チームは県内各地域の自転車を活用したまちづくりに貢献した実績も多く、地域特性や難易度設定を踏まえたルートの設定にご尽力いただきました。

試走会を実施した結果、上級者コースを新たに設定する必要性が確認され、ヒルクライムレースで利用されているルートを取り込むことで、より広い利用者層を対象とすることができました。

また、走行環境整備の確認と並行して地域資源の調査も実施し、自転車活用事例に精通した有識者から地域資源の連携や活用方法について助言が得られるとともに、観光施設側のサイクリスト受入体制についても確認できました。なお、受入環境が整っている施設はルートマップ等でも優先的に紹介するなど、地域が一体的に取り組むことで、将来にわたって持続可能な事業となるような仕組みを取り入れました（写真－1）。

(3) モデルルートの決定と環境整備

協議会及び試走会において議論を重ねた結果、道の駅や鉄道駅、大規模公園などを経由する周遊ルートを基軸とし、観光事業者や交通事業者など各関係機関が持つ地域資源の活用に関するノウハウを織り交ぜた上で、「走ってみたい」、「行ってみたい」を実現する全長約144kmのモデルルートが完成しました（図－5）。名称は協議会で絞り込んだ3案から一般投票により“ナス1（イチ）”となりました。

また、モデルルートにおける走行環境の整備に当たっては、全国の先進事例を参考としたほか、ナショナルサイクルルートの指定要件を踏まえ、路面表示や案内看板（写真－2）を設置すること



写真－1 委員との試走会の様子

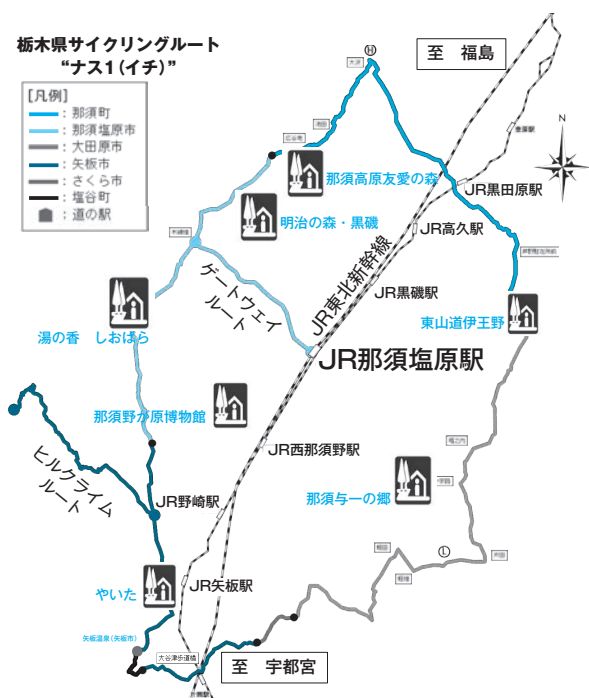


図-5 “ナス1” ルート

とし、サイクリストから一般観光客まで幅広く楽しむことができる自転車走行空間及び利用環境の整備に努めました。

令和3年度には、協議会においてフォローアップの場を設け、関係者間のモデルルートの活用の仕方について情報共有を行っています。

5. 今後の展開

令和4年度以降、県内全ての市町にモデルルートの設定を拡大するとともに、ナショナルサイクルルートへの登録を目指し、それぞれのルートをつなぐ大規模周遊ルートの設定を検討していきます（図－6）。

設定したモデルルートは、今後各種自転車イベントでの活用や、各地域におけるまちづくりのツールとして有効活用していきます。



写真-2 標識・案内看板の図・施工写真

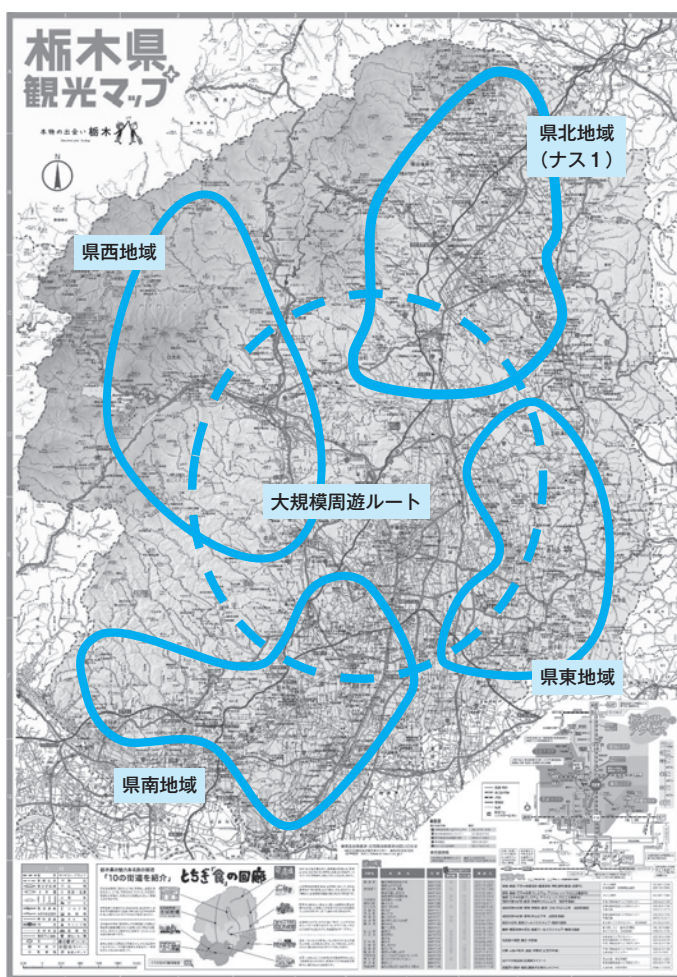


図-6 栃木県全体構想イメージ